資料１－２

《第２回下越地域医療構想調整会議説明資料》

新潟県立リウマチセンターの今後の方針について

１　再検証対象医療機関公表に対する受け止め

①　診療実績が特に少なく、かつ機能が類似した病院が近くにあるという観点だけで抽出されたものであり、地域の実情や各病院の特徴等をまったく考慮していない。

②　当院のような９領域に入っていない特定診療分野での実績を有する病院まで含め一律に再検証対象病院として公表したことは適切とは言えない。

③　一方的な公表に、当院でも患者や患者家族、当院スタッフからも当惑や不安の声が多く聞かれ、大変困惑している。

２　リウマチセンターの現在の役割

【リウマチ患者に対する専門医療及び回復期リハビリの提供】

・ 県内全域（近隣他県も含む）を対象とした、リウマチ患者への先進的専門医療の提供

・ 下越医療圏における機能分担（他医療機関からの紹介によるリウマチ治療及び回復期リハビリの提供、容体安定後の逆紹介）

【リウマチに関する情報発信機能】

・ 患者や関係医療機関、地域住民に対する啓発・情報発信（市民公開講座、講演会の開催等）

・ 医療従事者への研修機会の提供（医療ネット研修会、病院視察の受け入れ等）

【リウマチ専門病院としての臨床研究機能】

・ 治験、医療機関や大学等と連携したリウマチ臨床研究の実施

・ リウマチ研修医や医療スタッフ（看護、リハビリ等）の受け入れ

３　当院の現状課題

・ 新潟県全域における人口減少により、当院でも患者数は減少傾向にある。

・ 特に回復期病棟の病床利用率は 70%を下回っており、令和２年２月に県病院局が県立病院経営委員会で示した「県立病院の役割・あり方の見直しの基本的な方向」に基づき、病床規模の適正化の検討が必要と考えている。

・ 県立病院事業会計は危機的状況にあり、当院においても抜本的な経営改善が急務となっている。

４　2025 年に向けた当院の方針

・ 上記２に掲げたリウマチ専門病院としての役割をより一層果たしていくとともに、専門的機能を充実・発展させる。

・ 回復期病棟については、手術治療後、急性期後のリハビリ提供のため当面維持しつつ、圏域内他病院の動向を見極めながら、病床規模の適正化（10 床程度削減する方向で見直し）を検討する。
・ 下越医療圏における院外連携を密にし、役割・機能分担を進める。
・ 極めて厳しい新潟県病院事業会計の状況を踏まえ、徹底した経営改善、患者確保により、一般会計繰入金の削減を図る。
・ なお、県病院局において、現在、県立病院全体で見直しを検討しており、その中で今後変更になる可能性があります。